

臨床研究に関するお知らせ

宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座では、下記の臨床研究を実施しています。皆様には本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究課題名：パネルデータを利用したがんスクリーニング検査受診行動に関する 影響要因の探索

1. 研究の概要

日本におけるがんスクリーニング検査受診率は欧米に比べると低いままで改善がみられません。乳がんや大腸がんは定期的なスクリーニング検査により死亡率を低下させることが明らかとなっており、日本人のがんスクリーニング検査受診率向上にむけた探索が求められています。

今回、日米で比較可能であるパネルデータ Japanese Study of Aging and Retirement (JSTAR) と Health and Retirement Study (HRS) を利用して乳がんスクリーニング検査受診行動に関する影響要因について日米比較します。大腸がんについては、米国に項目がないため日本人のみで分析します。

本研究により、今まで改善できなかった日本人のがんスクリーニング検査受診率向上にむけた示唆を得たいと考えています。

【実施責任者】

木下 由美子 宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座・教授

【主任研究者】

木下 由美子 宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座・教授

【分担研究者】

金岡 麻希 宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座・准教授

【多機関共同研究】

宮園 真美 福岡看護大学・教授

原田奈穂子 岡山大学 大学院ヘルスシステム統合科学研究科 看護科学分野・教授

岡山大学 医学部保健学科 看護学専攻 基礎看護学領域・兼任担当教授

岸本 淳司 九州大学病院 ARO 次世代医療センター・准教授

遠山 岳詩 九州大学病院 先端医療オープンイノベーションセンター・助教

2. 目的

日米で比較可能であるパネルデータを利用して、乳がんスクリーニング検査受診行動に関する影響要因を探索し日米比較します。大腸がんスクリーニング検査受診行動については、米国に項目がないため日本人のみで分析します。

これらにより、今まで改善できなかった日本人のがんスクリーニング検査受診率向上に向けた基礎資料とします。

3. 研究実施予定期間

この研究は、研究機関の長の許可後から 2027 年 2 月 14 日まで行われます。

4. 対象者

既存の匿名データを 2 次利用します。

5. 方法

日米で比較可能であるパネルデータ Japanese Study of Aging and Retirement (JSTAR) と Health and Retirement Study (HRS) を利用して、乳がんスクリーニング検査受診に関する影響要因について日米比較します。大腸がんスクリーニング検査受診行動については、米国に項目がないため日本人のみで分析します。

【個人情報管理者】

木下 由美子 宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座・教授

6. 疑問、質問あるいは苦情があった場合の連絡先

この研究に関して疑問、質問あるいは苦情があった場合は下記連絡先へ連絡をお願い致します。

宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座

氏名 木下 由美子

電話：0985-85-9826

FAX：0985-85-9826